

# 原発災害 「復興」の影

## ■取り除く⑤

自治会の人口は約2700人で、そのほぼ2倍。「(県内)で除染作業員による事故や事件が多発しており、地域住民の心配や不安が増幅している」。自治会は昨年11月、除染事業を発注する環境省に対しそんな文面

### 地元業者で組合設立

「関西弁で話されると、何か怒られているように感じる」。地域を分かっている人は手を抜く。昨年からの住宅の除染を行う国見町。着手前の懇談会で住民から

### 外作業員への不安は大きい

町原発災害対策課企画管理係長の羽根洋一(50)は住民の心情についてそう語る。こうした状況に、作業員

# 宿舎建設であつれき

## 背景に作業員への不安

「県外から来る作業員も住んでしょ? 一体、どんな人たちなんだろう」。伊達市月館町で商店を営む高木サダ子(62)は、近くに建設中の除染作業員の寄宿舎について不安を口にす。

地元の下水道自治会が受けた説明では、寄宿舎は隣の飯館村などの除染を共同企業体として請け負う大成建設(東京)が作業員用として建設を進めている。

最大で500人以上の作業員の入居を見込む。同自治会

で建設の撤回を要請した。摘発者急増し計178人

こうした不安の背景にあるのは、県内で事件を起こしたとして摘発された除染作業員や関係者が急増している事実だ。県警によると、

同社が警備会社による夜間パトロールを実施することなどを盛り込んだ協定を同社などと締結した。一方、

環境省によると、伊達市内の他の場所でも寄宿舎の建設計画があるが、住民の反対で計画が凍結している。

そんな意見が相次いだことから、地元業者による組合を設立し、除染に当たる。

「地元業者が実施しているのも、『作業現場に県外ナンバーの車が止まっているのはどうしてか』などと問い合わせがある。町民の県

惑いの声がかかる。関東地方から本県に入り、昨年9月から除染作業に当たる男性(52)は現場で住民が「除染は県内の人

にやってほしい」と話してうと思いい、ここに来たのに

伊達市月館町で建設が進む除染作業員の寄宿舎。周辺住民からは建設の撤回を求める要請活動も起こった



(文中敬称略)